

大
頭
書
世
界
國
盡
亞
細
亞
州

特54

102

022047-001-7

特54-102

世界国尽

福沢 諭吉/編訳

M2

ADA-0382





世界國畫序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
 片ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則テ天
 下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知
 愚ニ係ルヲ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
 畫ノ著アルニ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
 ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
 下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
 及ヒ合衆國ヨリヨル之州ノ士又ソルフランク

序

明治二十六年己丑初冬



福澤諭吉

氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヲ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文章華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ歟カラス
然リト雖モ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スルモノハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラシク何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カシ
戒合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ
サレヒノナシ例ヘハニウヨル州ニ於テハ
閩州ヲ九千區ニ分テ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ
此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈ニレヲ至重ノ任ト云サル可クンヤ

近來ニウヨルクニ於テ人物ヲ選舉スルニアリテ其時入札ヲ授シタルモノ三十余萬人ナリシ奉行ナドノ選舉ナド蓋シ再後三十年ノ星霜ヲ過キテハ此人實ノ大半ハ物故シテ繼テ其身分

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教ヲ受ル兒童ナラン

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナラス他ニ又功德ノ大ナルヒノアリ其大ナル者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體裁ヲ寬大ニスト雖正議政其法ヲ巧ニスト雖

臣治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラズモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實切ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハリルヲ遠シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻ヨルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ヲラ
シ先ツ人ノ心ニ慈惠温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ妻孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ
前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導
シ純精無雜神靈微妙ノ心モノト云フ可シ此
教ニ亞テ切ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ
リ其功德亦小ヲラス今此國ニ於テ學校ノ増
加スルヲ毎年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ庸儒ノ具ヲ

去リ小説ニ惑ハスシテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ感ニセハ具恩ノ生靈ニ
及ノ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
七月八日

相澤諭吉 譯

九例

一此書は世間ニ行ハル翻譯書ノ風ニ異ナルとも
其實ハ皆英吉利亞米利加ニ開版シタル地
理書歴史類ヲ取集シテの内ヨリ肝要ノ處ニ
於テ通俗ニ譯シタルものニ私ノ作意ハ毫も
交ハラズ

一西洋ニハ年号ナリ其國ノ宗旨ノ改リたる年
を元年ト定メ明治二年ハ彼千八百六十九年
ニ當ル

九例

五

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億
百億と十陪つ、此位より次第に計へ上るな
り
一英の一里ハ千七百六十ヤロ、日本ハ
一里ハ日本ハ三尺少一余あり故に其一里ハ
日本ハ十四丁四十間余に當る、英の地理の里
法ハ少く長く其一里ハ二千二十五ヤロ、
よ當り即ち南北緯度の一度を六十に分ち其
一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀て畧との音
に近き縦文字を當るものとせんハ古來翻譯者
此思々よ色々文字を用ひ同ト土地よても
二も三も其名ハ似たり又或ハ唐人の翻
譯書を見て其譯字を真似たり、
ハ唐ハ文字の唐音以て西洋ハ字音に當た
る也ハ唐音ハ明ハ學者達ハ一分のべけれ
ども我々共ハ少くも分り故に此書中ハ
ハ勉て日本人ハ分り易き文字以用る中少
凡例

ハ事實ニ於テ變リあとなり唯近來ハ英書流
行カハ英の唱ニ從ふのみ

一地名人名海河等の名よも其文字の上下ハ
の如き印を附テ區別セリ

一書中はひふハ返の假名文字ニ圓キ濁点を附
けてはひふハ返と記シテヨリあれハひ
ふハ返ヨリ又ハひふハ返ヨリ
のラベレヨリハ返の音ナリ

目錄

一の卷

叢端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の卷

阿非利加洲

同頭書圖入

三の卷

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の巻

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の巻

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の巻

地理學の總論

天文の地學

自然の地學

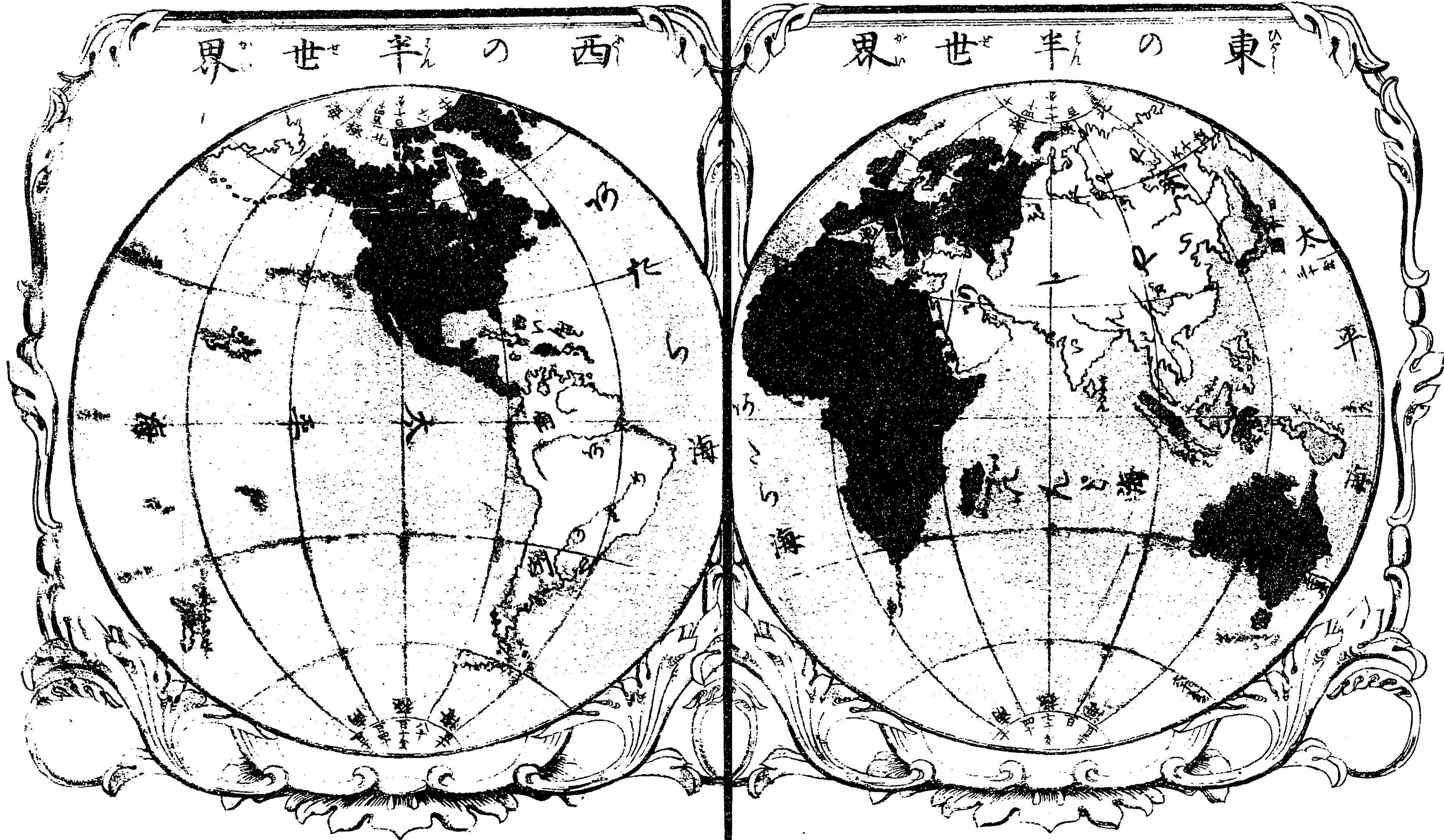
人間の地學

目錄終

目錄

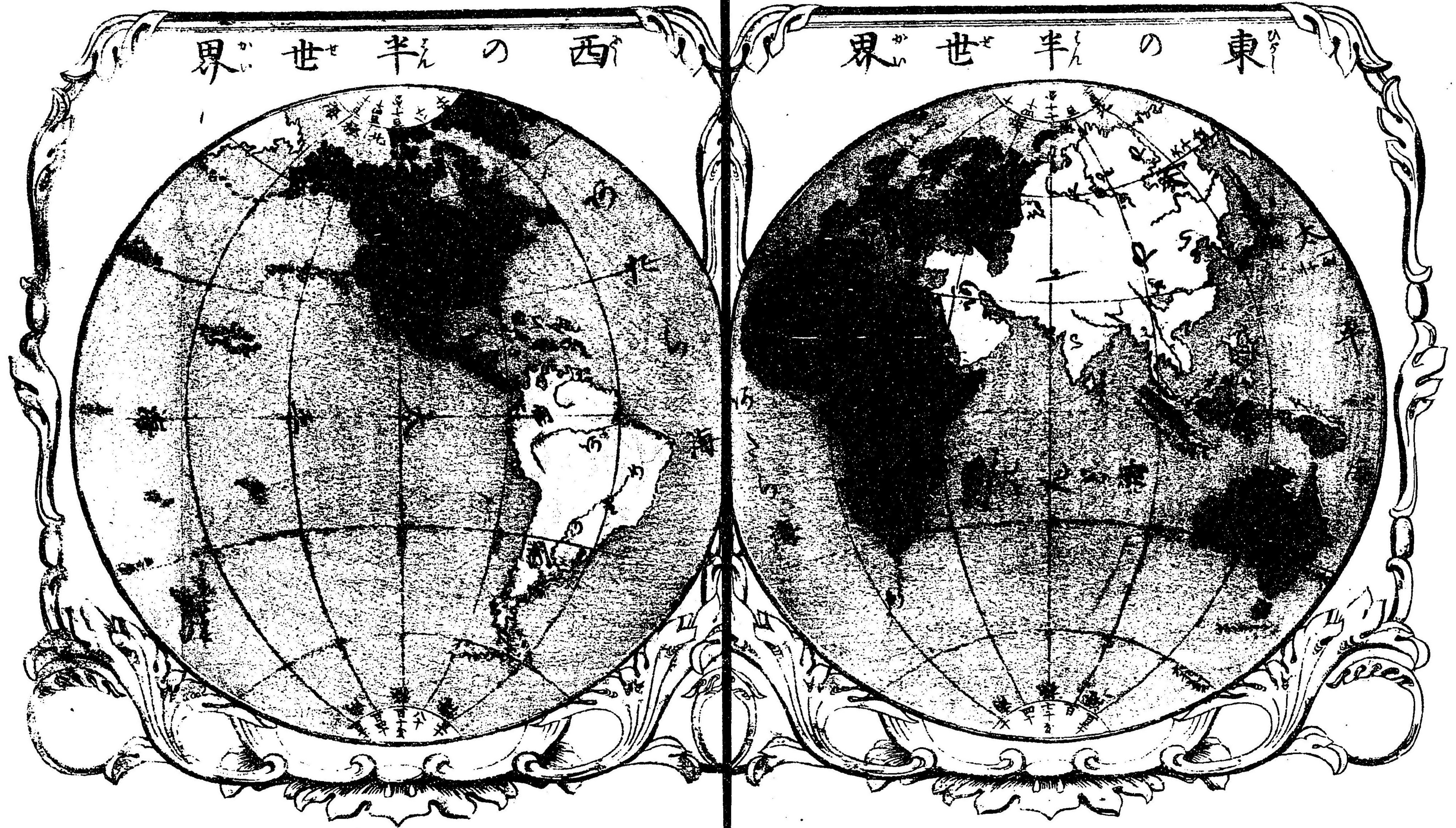
西の半の世の界

東の半の世の界



西の半世の界

東の半世の界





世界人民の事
 世界の廣さハ英吉
 利の一里四方と一
 坪立九二億の坪
 數ハ三億と四小
 分ハ三ハ海と一
 人ノ住ハ陸ノ廣
 但一英吉利の一里

世界地圖

世界國盡

發端

世界ハ廣一美

大

目

ハ日本の十四町四
 十三間は當り
 世界中の人の數ハ
 九十億は進一國々
 の土風小由て面色
 も同トかゞを知恩
 え一様トは其區
 別と種々から世
 界中多少の割合
 左の如し

亞細亞河非利加歐
 羅巴北と南に五米
 利加と螺の紀を
 亞大洲大洋海割
 南の島

歐羅巴の人種ハ色
 白其數四億二千
 萬人
 亞細亞の人種ハ色
 少しく黄り其數
 四億六千萬人
 亞米利加の山は住
 する人種ハ色赤
 其數一千万人
 阿非利加の人種ハ

名稱なる土地の風
 俗人情は変遷
 する事多し人様
 其知し者人の
 利は甲斐あり

亞細亞人種といふ
 氣候も北方志邊里
 尾の方ハ甚ど寒く
 天然の南は至もて
 赤道近く甚ど熱し
 禽獸草木もみよふ
 準トし異なり
 ○支那の廣さハ五
 百一十萬坪の數
 四億都の名を北京

倭地多し大平海
 の西は才亞細亞海の
 東は。我日本始
 一西の...
 一國...



といふ國中の男子
 ハ皆けい坊主なり
 始て見る人ハ甚
 とうしく思ふ

支那ハ亞細亞北一大
 國ハ武松多ク花房
 くみ多クマ印度北三
 魯西亞東の了ハ大
 平海濱戸を屋も

支那の産物ハ絹布
 木綿瀨戸物其外衆
 牙細工等小間物多
 珠玉茶ハ其の國
 の銘産也毎年外
 國へ積出さるる九
 一億斤に近しとい
 ふ歐羅巴亞米利加
 不ハ茶園ありその
 國の人の用る茶

日本國九州紀前江
 長崎 支那の東
 峯の上海 海路僅
 三百里蒸氣船ハ極
 少ハ十日ハ味を費

香港の港



ハ支那と日本
 積出品

南 香港
 英吉利領地一區
 新
 高貴銀

支那の四圍に
 往昔ハ大造り事
 成シ北南の
 方杭州府通
 の掘割長三
 里餘を北の方
 ハ萬里の長城
 長と土塊を其
 一五尺一三

支那の東洋一
 活活古陶真の時代
 千歳仁義五常

大谷小路と山と越
 六百里の長
 及て當時の固
 修覆もふく
 次第に珍
 古跡として西
 人の折々見物
 此長城ハ二千
 年前秦の始皇帝
 明と防とめ小築

人情厚風
 中より文の昇化
 後過去風俗
 善し徳分

さしものあり
 今より二千三百年
 前より孔子の
 一人の名高き
 學者として門人
 著書の書も段々
 後の世に傳へて
 勿論日本にも
 人の人のみして
 人として尊敬す

知らみしに我も
 向ふ人奇と著知
 乃高枕暴天
 変りてすをせり
 抑へし急改の天罰



支那の政事の立方

道に學ぶ者多し
 天保十二年英吉利
 と和が起し唯一
 和睦を
 償洋銀二百萬

つせらも其後り如
 然外國人かふとに
 けり
 ○前印度と後印度
 と、屬寺洲といふ
 河と以て界し
 此河の畔に阿羅波
 婆とていふ釈迦
 來の聖地あり今
 ても奇蹟あり

るが、後印度と
 前印度とを
 中印度とて暹羅
 安南及び留清
 西貢國政府を

鳳新州の景



参詣の人二十萬人
 の餘りといふ

いし、玉き水と人
 氣陋しく文字なき
 西洋人の悔れ受て
 松も、計りなき暹
 羅と度留滿のあり

後印度のあとと西
 洋人のびんども
 んといふ大抵
 さ英吉利領を
 其北の方より
 と唱へ英の支配
 失ざるもの二三
 ののり前印度
 西の方へ英の支配
 下

下るのみる長
 北満首花の漢
 多良嶋の對東
 西僅う二千餘里間
 以海峽諸島花の



輕骨田奉
 行所の觀

滿港花の南の端
 新資堀といふ小島
 西英吉利領の港
 して諸國の船の立

港戸を舟りて南
 船の往来は賑
 隆戸は舟を以て
 北向し雜糧の海
 深く入るる粟の河

寄る所あり
後印度の南の端
西論といふ島
同トく英領
此島ハ
釋迦誕生之地
と云ふ



の東岸ニ拜都
種骨田英吉利領の
惣奉行印度北方を
支配し軍艦商船
数多く出細五活玉
英

印度の産物ハ
米麥砂糖蜀黍麻藍
烟草胡椒阿片黄金
鉄銅珠玉の類且
の地ハ春夏秋冬の
差別ナレバ暖國
色々珍らしき菓實
多ク獸類ハ獅子
犀象虎又恐ろし
大蛇蟻と云ふ山

吉利ハ威勢之也
印度北領地と云
印度北西の國と云
河英賀仁漢丹玉苗

居る



○邊留社、舊國名
もと元來、氣粗
く政事向、暴虐不

在源丹、多々の端
の處、皆知次丹、楮立
國、以右、行水、成
俗、粗、夷、秋、以、西
一、邊、留、社、名

て下々の取扱より
からざるか、國
の力次第、不棄、昔
時、に至てハ、文武と
も、不列立、せ、千八百
十三年、文、化、千八百
二十八年、文、政、十、會
西、亞、と、戦、ひ、兩、度、と
も、敗、北、し、て、大、土
地、と、失、つ、て、近、來、ハ

世、と、し、所、謂、古、國、を
主、紀、元、以、前、六、百、年
白、洲、至、る、以、て、夷、隣
の、金、を、元、と、し、何、と、武
威、が、亞、細、亞、を、弄、す。

英國と交して其の
士官と雇ひ武備と
整つより



一 沖を二五三傳
可代福之物
不可蒙古を改
北千五百年明
政府と改

○荒火屋の大國
色ども砂漠とて
えすく廣き砂原
て目氣候ハ熱
兩ハ少く住ハ
一からども地
これども平地ハ
草木よく生長
物ハ藥種菓實
の類多し獸類ハ

王富紀北世
多道南村の八海
一西の一砂漠廣
中荒火屋國南

馬路 駝路 珠のりらび
 かの馬とて、既に
 日本も渡り世界
 中の名馬より此國
 ハ風倍りくあり
 盜賊多きゆ、國の
 人々廣き沙漠と越
 て旅行する小ハ大
 勢駝路も衆を武器
 と携へて通行する

下 意火屋海北
 土留吉の塚
 五面五孔障の陸
 彼岩望の河洲利
 加海中公厚る



○土留吉の領介ハ

西紅海子の南北地
 疎ハ東洲の北峽
 名え高兒百里
 星如鐵道北
 水ハ地中海亞細亞

歐羅巴と亞細亞と
 の二大洲は跨る地
 中海と黒海との間
 の瀬戸と以て界と
 せし故に亞細亞の
 方々の地と亞
 細亞土留古といひ
 歐羅巴の方々の
 本領と歐羅巴七留
 古といふなり當時

阿非利加歐羅巴
 玉塚は中海の海
 北に亞細亞
 屋雨は屋羽禮決
 院惣不亞細亞土留

ハ土留古の政事不
 取締り飛地の領
 かしは度々變動の
 あり
 ○魯西亞は歐羅巴
 と亞細亞と地續は
 て両方々領分あり
 二大洲の界は守良
 留山なり志邊里屋
 不ハ別鹿といふ處

古に志留系は海
 傾地を志
 志邊里屋を亞細亞
 北に志留系は西
 守良留は林處

わいて馬の代は用
由又一種の犬や
るも牛馬の如く
車を引くといふ



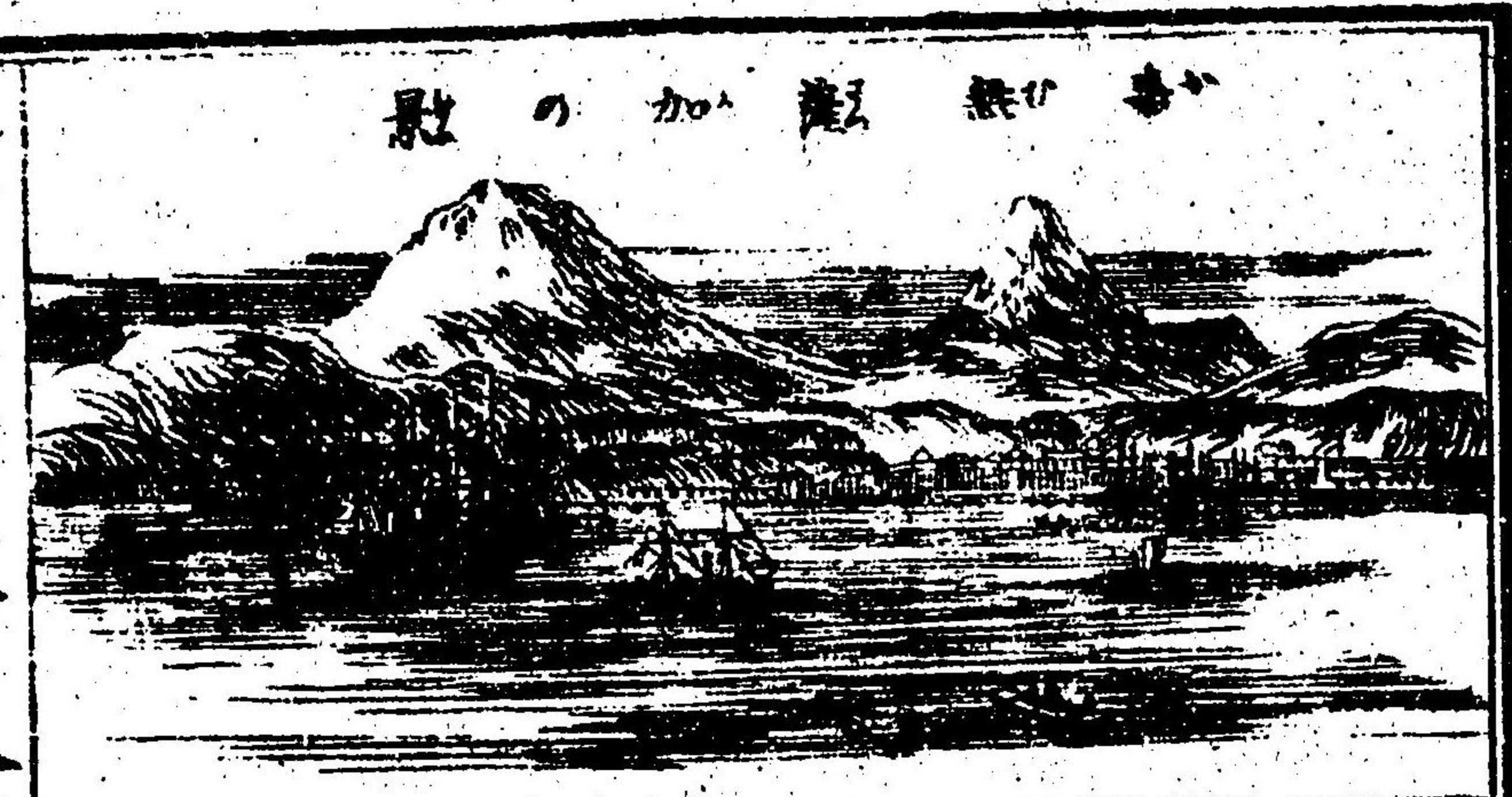
東の倭を亞米利加
近くもよふ瀬
戸の水をみよ支
那を引くを北を
過るに北極海東西

志達里屋ハ土地廣
けもども人少く三
百萬人不過も土人
の獵を渡世とせし
又宇良留山の邊
ハ金銀の山多く香
西亞の木國を聚
人と移して移して
金と掘出るといふ
志達里屋の産物ハ

一、五百餘里南北
凡、百里西亞の領
地の廣大ハ世界第一
此類カキアキハ名
一、紀奉行所ハ西

獸皮の賣買の
 交易の皮と以て
 支那の皮物瀬戸物
 は易の心
 嘉無薩かの港とて
 いふ所の東
 の方西の東
 未利か往來の海
 上甚と道

玉筋一戸保苗次
 東國筋ふ伊苗次
 南境の喜阿多田
 賣買城の隣
 支那と魯西亞の産



物互易も交易
 場末廻り喜無薩
 河瓦一建一仁来
 府我日本以極夷地
 あり煙土名中。隣

魯西亞の政府、昔
 地面と廣くも
 心掛け近
 又滿州の地を
 取て専ら黒龍江の
 造り手と入と平
 始終碇泊し河小
 小形の蒸氣船と
 浮して運送の便利
 と造り

國 東の... 海... 突... 加... 細... 立... 北... 東...

亞細亞洲

